

JavaScript

データ型(数値・文字列・論理値)

3 時間目

データ型

解説

プログラミング言語を学ぶ上で、「データ型」という言葉は覚えておく必要があります。
ここでは3種類を覚えておきましょう。

プログラムは様々なデータの種類がある

- 1 数値 (1、2、2.3、100 など)
- 2 文字列 (internous、プログラミング など)
- 3 論理値 (True、False)

数値とは

数値とは整数や小数点を使った数字のこと

script.js(JavaScriptファイル)

```
document.write( 12345 );
```

12345

数値を表示するときは
ダブルクォーテーションはつけません。

script.js(JavaScriptファイル)

```
document.write( 3.14 );
```

整数だけでなく、少数点を表示することも出来る。

< > ↺ 🏠

3.14

script.js(JavaScriptファイル)

```
document.write( -24 );
```

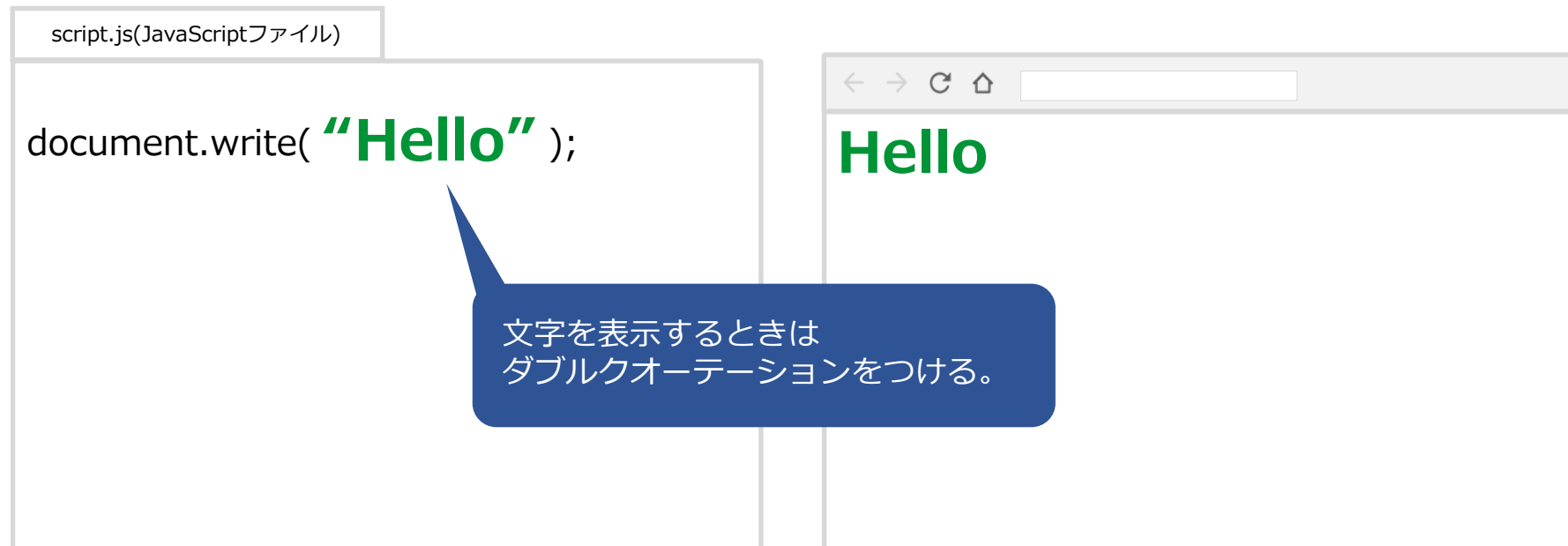
マイナスも表示できる。



-24

文字列とは

文字列とはアルファベット・日本語・数字の集まりのこと



script.js(JavaScriptファイル)

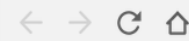
```
document.write( "おはよう" );
```



おはよう

script.js(JavaScriptファイル)

```
document.write( "2017" );
```



2017

script.js(JavaScriptファイル)

```
document.write( "2017年" );
```

← → ↺ 🏠

2017年

論理値とは

論理値とは「true」か「false」どちらかの値

$x=5$

$y=5$

$x == y$ は論理的にはTrueである

補足

「true」と「false」については、if文の項目で詳しく勉強しますので、
ここでは、言葉のみ覚えておきましょう。